

第15回デイケア学会
平成22年9月17日 仙台市

地域との繋がりを大切に育ててきた ボランティア活動

～メンバーに見られた意識と行動の変容～

医療法人社団 五稜会病院
デイケアセンター『コラボ』

○鍛冶 志保里 山田 寿代 鈴木 ゆかり
三浦 一恵 山田 正光 田中 倉一

はじめに

『コラボ』の概要

病院併設型 / 大規模デイケア

利用者数・・・1日平均 約50名

利用者年齢・・・19歳～80歳

(平均年齢46歳)

利用目的・・・居場所目的 約3割

疾患割合・・・統合失調症 約85%

ボランティア活動への取り組み

居場所を目的とした利用者の活動性低下

- メンバーの興味に注目
病院周辺のゴミ拾いに多数が参加
「何かボランティアがやりたい！」という声

【目的】

利用者の活動性を高め、やり甲斐に繋げる

ボランティア活動の概要

社会福祉協議会と連携し、活動内容等について決定

- 活動内容及び期間＝冬季・・・除雪
1月中旬～3月中旬
夏季・・・雑草取り・ゴミ拾い
5月中旬～10月中旬
- 活動場所＝病院近郊の公園・高齢者宅
- 活動時間＝週2回・午後の約1時間
- 特定のメンバーを勧誘・プログラムに掲載しない方法
- DCスタッフ以外の地域生活支援室や総務職員も支援

対象者の要件

- ・プログラムへの参加が少ない
- ・病状が長期間安定している
- ・活動に支障のある身体疾患がない

■ 勧誘に対する反応

「自分の家だけで大変」

⇒ 不参加

「こっちが頼みたいくらい」

「困っている人がいるなら」

⇒ 参加

平成19年1月～参加メンバー2名で活動開始

活動の経過(開始直後)

<負担感の表出>

- 最初は張り切っていたが、疲れてきた
- 飽きてきた
- 腰痛が再発した
- スタッフにやらされている感じがする

参加メンバーの少なさが負担感を増強
増員が課題

↓
プログラムに掲載、自由に参加できる方法

活動の経過(グループの変化)

地域からの感謝があって・・・

<メンバーの自主性の高まり>

- 全体のミーティングで参加を呼びかける
- 参加メンバー募集のポスターを作る
- お互いに声をかけ合って活動に参加する

新しい参加メンバーの参入があって・・・

<連帯感や仲間意識のめばえ>

- 励ましたり、相手を気づかう
- お互いに協力にて作業をしようとする態度



活動の経過(メンバーの変化)

- ボランティア活動に自主的に参加
- 参加メンバーの感想
 - 「やり甲斐を感じる」「充実感がある」
 - 「役に立てたことが実感できた」
 - 「社会参加ができた気がする」
- リーダー的な役割を担う
- 自信に繋がり、ステップアップに挑戦
- 他の活動も体験したい！



結果



	活動回数	参加人数
冬季	54回	151人
夏季	96回	342人
総計	150回	493人

参加者総数 18名

- 性別 男性(13名) / 女性(5名)
- 年齢 25歳～70歳 (平均 約51歳)
- 疾患 統合失調症(13名) 気分障害(2名) 他(3名)
- 参加回数 最多 123回 / 平均25.9回

考察



- 利用者の意識の中には、何か人の役に立ちたいという気持ちがあり、自分の力を発揮できる活動を求めている
- 感謝された経験が、人の役に立っているという実感となって、さらにやり甲斐や充実感に繋がった
- 社会の一員であることや地域と繋がっていることを体感できる経験となった
- 特定のメンバーを対象として勧誘する方法は、閉塞感や負担感を増強したが、自由参加に変更したことで、多くのメンバーの関心をひき、参加に繋がった

今後の課題

ボランティア活動にやり甲斐や充実感を求める利用者に対して

- ボランティア活動には関心があるが、現在の活動内容には興味を持たないという利用者が存在する
- 利用者が希望する活動の検討や参加に繋げるための取り組みが必要
- スタッフが活動をどう支えていくか

